

冒険のはじまり

グローバル工学教育推進機構／国際課

特定専門員 蒲原弘継

愛知県豊橋市。四月一日。雨で桜が濡れていた。この日に初めて豊橋に来た学生も多いだろう。初めて訪れた土地での大学生生活。全国や世界各地から集まった同級生との出会い。そして、初めての一人暮らし。まだ右も左もわからない環境の中での新生活。今年は新型コロナウイルス感染症拡大という人類がこれまで経験したことのない状況の中、オンラインでの講義もはじまった。そんな変化に流されることは簡単だ。しかし、こうした荒波の中でも私たちの成長は私たち自身の選択にかかっている。新しい環境は常に新しい自分を発見し、自己を成長させる機会に満ちている。

想定外のことが起きたときこそ、冒険のはじまりだ。

(映画「180° SOUTH」より。パタゴニア創業者イヴォン・シュイナードとザ・ノースフェイス創業者ダグ・トンプキンスが運命を 180° 変えた伝説的な旅にインスパイアされた冒険ドキュメンタリー)

冒険に必要なものはなんだろう。前に進む時には準備と体力が必要だ。生活リズムと食生活は整えよう。豊橋は全国トップクラスの農業生産地域。地元の農作物を目の前にして毎日コンビニ、カップラーメンはもったいない。

次は進む先のゴールを定めよう。冒険といえども暗闇の中、目的もなく何も持たずに手探りで進む必要はない。一生の中で学生時代にしか経験できないこと、チャレンジできることを何でもやってみよう。ゴールは具体的に日付を入れておく方がよい。学生生活は長いようで短い。手帳にやることをリストアップし、期限をつけ、優先順位を決め、スケジュールを計画しよう。講義の予定や課題の締め切りを手帳に書き、毎朝、手帳を開く習慣を身につければ、限られた記憶力に全てを頼る必要もないし、自分がどれだけ空いた時間を持っているかが把握できる。

情報収集も忘れずに。すでに数年豊橋で暮らしている学生（特に学部1年次からの進級者）はこの土地に詳しいはずだ。冒険には悩みがつきものだし、一人で考えるより、悩みや喜びを分かち合う仲間を持った方がよい。課外活動等を通じてネットワークを広げよう。そして、仲間には多様性があつた方が間違いなく楽しい。是非、日本人は留学生、留学生は日本人に声をかけてほしい。新しい出会いによってこれまでとは違った世界が広がるはずだ。